

日本画の情景Ⅰ・Ⅱ

Ⅰ.理想郷を求めて

2025年  
4月12日(土) - 5月18日(日)  
休館日:月曜日  
(ただし、4月28日、5月5日は開館)

Ⅱ.「映える」景色

2025年  
5月20日(火) - 6月22日(日)  
休館日:月曜日(ただし、6月2日は開館)

シベリア・シリーズⅠ・Ⅱ

Ⅰ. 2025年4月12日(土) - 6月22日(日)

休館日:月曜日(ただし、4月28日、5月5日、6月2日は開館)

Ⅱ. 2025年7月10日(木) - 9月15日(日)

休館日:月曜日(ただし、7月21日、8月4日、11日、9月1日、15日は開館)

山口県三隅町(現・長門市)出身の画家香月泰男(1911~74)が、4年にわたる自らの戦争抑留体験を描いた「シベリア・シリーズ」。今年度は、体験順に4期にわけて紹介します。第Ⅰ期では「応召とハイラル駐屯」、第Ⅱ期では「敗戦と収容所への移送」に関わる作品を展示します。

描かれた水のいきもの

2025年7月10日(木) - 8月17日(日)

休館日:7月14日(月)、28日(月)

古くから人々の身近な存在であった動物や、魚など水の中の生き物たち。日本の絵画では動物などの生き物のモチーフが伝統的に受け継がれ、江戸時代後半以降には多様な動物絵画の世界が新たに花開いていきました。動物写真家・岩合光昭氏の特別展「岩合光昭 写真展 PANTANAL」開催にあわせ、2つの会期にわたり日本画における水の生き物や動物たちの絵画表現に注目し、近世から近現代にかけての多彩な動物絵画の世界をご案内します。

森周峰《猿猴図》2曲1隻 18~19世紀 山口県立美術館蔵

令和7年度 県立美術館メンバーズクラブ

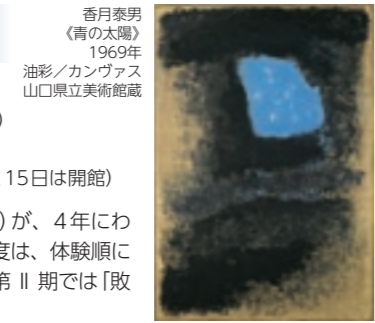
山口県立美術館4/12(土)より会員募集!!

山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館では、両館で開催する展覧会等をおして美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的として、2館共通のメンバーズクラブ会員の募集受付をスタートいたします。12年目となる本年も、皆さまのご入会をお待ちしております。

\*会員特典・入会方法などの詳細については、当館HPまたは会員募集チラシをご覧ください。 \*入会当日よりご利用いただけます。



特別展「カナレットとヴェネツィアの輝き」の開催にあわせ、当館の日本画コレクションから「風景」を題材にした作品を2つの会期にわけて紹介します。第Ⅰ期では、墨だけで多彩な色を想像させる山水画、四季の情景を盛り込んだ花鳥画など、実景よりも「この世に存在しない」理想郷が重んじられた日本画の世界をお楽しみいただけます。第Ⅱ期では、「映える」日本画の構図や表現などに注目し、画中に秘められた画家ならではの視点や魅力を探ります。



どうぶつ絵画の世界

2025年8月19日(火) - 9月15日(日)

休館日:8月25日(月)、9月8日(月)



2025 - 2026

schedule 山口県立美術館 令和7年度展覧会スケジュール

	コレクション展示	特別展示
4月	4/12(土)~5/18(日) 日本画の情景Ⅰ 理想郷を求めて	4/12(土)~6/22(日) トーマス・シュトゥールト 無意識の場所
5月	5/20(火)~6/22(日) 日本画の情景Ⅱ 「映える」景色	4/24(木)~6/22(日) カナレットとヴェネツィアの輝き
6月	7/10(木)~8/17(日) 描かれた水のいきもの	7/10(木)~9/7(日) 岩合光昭 写真展 PANTANAL
7月	7/10(木)~9/15(月・祝) シベリア・シリーズⅠ 応召とハイラル駐屯	9/25(木)~11/24(月・祝) 歌川国芳展 一奇才絵師の魔力
8月	8/19(火)~9/15(月・祝) どうぶつ絵画の世界	1/22(木)~25(日) 第78回山口県学校美術展覧会
9月	9/25(木)~10/26(日) 雲谷派の奇想	1/30(金)~2/1(日) 山口3大学合同卒業展
10月	10/28(火)~11/24(月・祝) 雪舟と雲谷派	2/26(木)~3/15(日) 第78回山口県美術展覧会
11月	11/28(金)~12/25(木) 大きな日本画	
12月	1/6(火)~2/4(水) 新春寿ぐ吉祥画	
1月	1/6(火)~4/12(日) シベリア・シリーズⅣ 帰還と故郷	
2月	2/17(火)~3/15(日) 文学×絵画	
3月	3/17(火)~4/12(日) 没後60年 藤田隆治	

Information

- 休館日 月曜日 ※祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。特別展開催中の第1月曜日(7/21)は開館。
- 臨時休館 4月1日(火)~11日(金)、6月23日(月)~7月9日(水)、9月16日(火)~24日(水)、11月25日(火)~27日(木)、12月26日(金)~2026年1月5日(月)、2月5日(木)~16日(月)
- 開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)
- 料金 コレクション展:一般400(320)円 学生250(200)円  
\*18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方は無料。  
\*障害者手帳等をご持参の方とその介助の方1名は無料。  
\*令和7年(2025年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。
- 特別展ほか:展覧会によって料金が異なります。



山口県立美術館  
Yamaguchi Prefectural Art Museum  
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1  
TEL:083-925-7788 FAX:083-925-7790  
https://y-pam.jp



山口県立美術館の公式アカウントはこちらから

143

Contents

コレクション展

特別展

カナレットとヴェネツィアの輝き  
岩合光昭 写真展 PANTANAL

コレクション展

日本画の情景Ⅰ・Ⅱ  
シベリア・シリーズⅠ・Ⅱ  
描かれた水のいきもの  
どうぶつ絵画の世界

年間スケジュール

天花  
TENGE



トーマス・シュトゥールト 《ヘルダー・ブリュッケン通り、ドルトムント》 1985 山口県立美術館蔵

トーマス・シュトゥールト  
—無意識の場所

2025年4月12日(土) - 6月22日(日)

表紙作品解説

トーマス・シュトゥールト  
《ヘルダー・ブリュッケン通り、ドルトムント》  
1985年  
山口県立美術館蔵

現代ドイツを代表する写真家トーマス・シュトゥールトは、1954年、オランダ国境に近いゲルダーンで生まれました。1973年にデュッセルドルフの美術アカデミーに入学、当初は絵画を専攻し、画家ゲルハルト・リヒターに師事しましたが、のちに写真家ベルント・ベッヒャーのクラスで学びました。

アカデミー在学中の70年代半ばから、大型カメラによる解像度の高いモノクローム写真で、都市の街路の撮影に取り組み始めたシュトゥールト。この《ヘルダー・ブリュッケン通り、ドルトムント》は、デュッセルドルフから60kmほど離れたドルトムントの広場で撮影されたものです。建物の外観の細かな表情が、すみずみまでくっきりと写し取られています。街灯に付けられた小さな標識の文字も、作品のタイトルである“Holder Brückenstr.”と読むことができます。時計の針が指すのは4時2分ころ。でも、いったいこの街は今、朝なのか、夕方なのか…。とっさに判断しかねるのも、空には光が満ちているのに、太陽の位置を示す情報が何も見当たらず、街には生活の気配があるのに、人影が全く無いからです。とはいえ、北緯51度のこの街の朝4時といえば、まだ真っ暗なのでしょう。

このような都市の街路のシリーズを、シュトゥールトは「無意識の場所」と名付けて展示してきました。普段は意識されずに見過ごされてきた街の一角、といった意味でしょうか。見慣れていたはずの街角に忽然と現れた無人の不思議な「時の姿」を、シュトゥールトのカメラはクールに鮮やかに写し取っています。

(山口県立美術館 元副館長 斎藤郁夫)



特別展

# カナレットと ヴェネツィアの輝き

## Canaletto and the Splendour of Venice

会期 2025年 4月24日(木) - 6月22日(日)

休館日:月曜日 ※ただし4月28日、5月5日、6月2日は開館

【主催】  
山口県立美術館、毎日新聞社、  
tysテレビ山口、スコットランド国立美術館

【後援】  
駐日イタリア大使館、日本航空、日本貨物航空、  
ブリティッシュ・カウンシル、箱根ガラスの森美術館、  
ITAエアウェイズ

【協賛】  
DNP大日本印刷

【特別協賛】  
ヤマネ鉄工建設株式会社

観覧料 一般 1,600(1,400)円、シニア・学生 1,400(1,200)円

※シニアは70歳以上の方、( )内は前売り、オンラインチケット  
および20名以上の団体料金。

※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

※前売り券は、ローソンまたはミニストップ店内のLoppi(コード:  
61805)、セブンチケットでお求めください。オンラインチケッ  
トの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

18歳以下  
無料



カナレット 《カナル・グランデのレガッタ》 1730-39年頃 油彩/カンヴァス ポウズ美術館、ダラム  
The Bowes Museum, Barnard Castle, Co. Durham, England



カナレット 《昇天祭、モーロ河岸に戻るプチントーロ》  
1738-42年頃 油彩/カンヴァス  
レスター伯爵およびホウカム・エステート管理委員会、ノーフォーク  
The Earl of Leicester and the Trustees of the Holkham Estate

18世紀にヴェネツィアで活躍したヴェドゥータ(景観画)の  
巨匠カナレット(本名:ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)。「ア  
ドリア海の女王」とも呼ばれるこの街の華やかなイメージは、  
カナレットの緻密かつ壮麗な描写を通じてヨーロッパ中に広ま  
り、19世紀、20世紀を経て現代まで受け継がれています。

本展は、エディンバラ大学教授のクリストファー・ベイカー  
氏と成城大学名誉教授の千足伸行氏の監修のもと、本邦初公  
開となるカナレットのヴェドゥータを多数ご覧いただけます。  
さらに、ジャンルとしてのヴェドゥータが生まれ、広まっていっ  
た18世紀、そしてその伝統を受け継ぎ、この街の新しいイメ  
ージを開拓していった19世紀の画家たちの作品まで、水の都ヴェ  
ネツィアの魅力をたっぷりご紹介いたします。展覧会の最後を飾る  
のは印象派の画家モネの作品。カナレットとまったく異なるア  
プローチで描き出された、この世にも稀な水上都市は、曇気  
楼のような美しさを混えています。

晴朗な空と輝く水面、そして共和国時代の栄華をしのばせ  
る煌びやかな祝祭。およそ200年にわたって画家たちのインス  
ピレーションの源となってきたヴェネツィアの華麗なる移り変  
わりをお楽しみください。

ジョヴァンニ・パッティスタ・ティエポロ  
《アントニウスとクレオパトラの出会い》  
1747年頃 油彩/カンヴァス  
スコットランド国立美術館  
© National Galleries of Scotland



ミケーレ・マリエスキ 《リアルト橋》 1740年頃  
油彩/カンヴァス ブリistol市立博物館・美術館  
Image courtesy of  
Bristol Museums:  
Bristol Museum &  
Art Gallery



クロード・モネ 《パッツォ・ダ・リオ、ヴェネツィア》  
1908年 油彩/カンヴァス  
ウェールズ国立美術館、カーディフ  
© Amgueddfa Cymru - Museum Wales



特別展

# 岩合光昭 写真展

## PANTANAL パンタナール 清流がつむぐ動物たちの大湿原

会期 2025年 7月10日(木) - 9月7日(日)

休館日:月曜日  
(ただし、7月21日、8月4日、8月11日、9月  
1日は開館)

観覧料 一般 1,400(1,200)円  
シニア・学生 1,200(1,000)円

※シニアは70歳以上の方、( )内は20名以上の団体料金。  
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等  
は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

18歳以下  
無料

【主催】 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送

【企画協力】 株式会社クレヴィス

## ひっくり返りお腹を見せるメスのジャガー



© Mitsuaki Iwago



カピバラの鼻息でふき飛ばされた(?)  
ウシタイランチョウ

© Mitsuaki Iwago



パラグアイカイマンの  
視線の先は……

© Mitsuaki Iwago

「ネコ写真家」として人気の動物写真家・岩合光昭(1950-)。その美しく想像力をかきたてる動物写真は、『ナショナルジオグラフィック』誌の表紙を二度にわたって飾るなど世界的に高い評価を受けています。本展では南米大陸中央に位置するユネスコの世界遺産、パンタナールに暮らす野生動物の生命力溢れる姿をご覧ください。パンタナールは世界最大級の熱帯湿地。その圧倒的なスケールは日本の本州の面積に匹敵します。あたり一面が豊かな水に覆われる雨季と、水が引き地表が現れ出る乾季との劇的な環境の変化は、多種多様な動植物の生命を育てています。

ガラパゴスやマダガスカルなど世界中で野生動物に迫り続ける岩合光昭が、念願のパンタナールでジャガー、カピバラ、パラグアイカイマンをはじめ約35種類の動物を鮮やかに捉えました。雨季と乾季、どちらの姿も捉えた二年間にわたる取材の成果を、2メートル超のサイズを含む102点の作品によってご紹介します。手つかずの自然のなかで生きる動物たちのありのままの姿を大迫力の画面でご堪能ください。

また、岩合を象徴するイエネコ、ライオンやトラなどのネコ科の動物写真を美術館の敷地内に集めた「ねこ科」展を同時開催いたします。世界各地の美しくて愛らしい自由な「ねこ」たちの魅力を、館内外を散策しながらお楽しみください。

## ねこ科 大きなアルパカにだって動じない



ペルー・クスコ郊外 © Mitsuaki Iwago

岩合光昭 MITSUAKI IWAGO



© Machi Iwago

1950年東京都生まれ。19歳のときに訪れたガラパゴス諸島の自然の驚異に感動し、動物写真家の道を進み始める。「海からの手紙」で第5回(1979年度)木村伊兵衛写真賞を受賞。2012年よりNHK BSプレミアム「岩合光昭の世界ネコ歩き」が好評放映中。「どうぶつ家族」、「ネコライオン」、「ねこ」ほか著書多数。岩合光昭オフィシャルサイト <https://iwago.jp>